

日本学術振興会特別研究員-PD申請書 提出前チェックリスト

—例年、誤記の多い箇所をリスト化しています。

当チェックリストでセルフチェックを行ってから、庶務係に申請書を提出してください！—

チェック箇所	チェック内容	チェック✓
全ページ右下 申請者登録名	氏名の入力漏れが無い	
全ページ 文字サイズ	参考文献の引用部分も含め、文字は10ポイント以上で作成している	
全ページ 様式	昨年の様式を利用していない、様式に予め入力されていた文字等を削除していない	
P1 版数	最新の版数になっている。 ※すでに申請書を「確認完了・提出」し、「OK」ボタンを押している場合は、申請管理画面下部「申請書の確認」から申請書を印刷してください。(未提出であれば第0版) 電子申請システムにアップロードした書類の版数と印刷した書類の版数が合っていないと、受け付けることができません。	
8 ローマ字表記	姓(大文字)・名(最初の1文字のみ大文字、2文字目から小文字)の順で記載している。	
12 学歴	「1.平成〇年〇月」あるいは「1.YYYY年〇月」と和暦・西暦いずれかで統一して記載している。 (13 博士の状況にあわせて「1.平成〇(西暦YYYY)年〇月」と併記しても可。) 課程名・専攻名に注意して正式名称を記載している。 例) 「大阪大学 文学部 人文学科 卒」 「大阪大学 大学院博士前期課程 入学(文学研究科 文化表現論専攻) 修了見込」 「大阪大学 大学院博士前期課程 入学(文学研究科 文化形態論専攻) 修了見込」 「大阪大学 大学院修士課程 入学(文学研究科 文化動態論専攻) 修了見込」	
13 博士の状況	「6.専攻名」を正しく記載している。 ※講座名ではなく専攻名。大阪大学文学研究科は「文化表現論」「文化形態論」「文化表現論」のいずれか。	
14 研究・職歴等	「1.平成〇年〇月」あるいは「1.YYYY年〇月」と和暦・西暦いずれかで統一して記載している。 (13 博士の状況にあわせて「1.平成〇(西暦YYYY)年〇月」と併記しても可。) TA/RAなどの従事歴は、正式名称を記載している。 例)「大阪大学文学研究科ティーチング・アシスタント」 ※職名は大学によって異なりますので、不明な場合は各大学の受入れ担当部署へ問い合わせてください。	
P2 17,18,19 研究者番号	教員本人もしくはKaken(科学研究費助成事業データベース)検索等を利用して番号に誤りが無いことを確認した。 ※日本国内で研究をしている大学教員の多くは、研究者番号を持っています。	
20 申請者受入部局正式名	(文学研究科受入れの場合は)「文学研究科」と記載している。	
別紙(該当者のみ)	すでに申請書1Pへ入力済の部分も含めて⑫～⑭の事項を1.から全て記載している。	
P9 (6) 人権の保護及び法令等の遵守への対応	該当しない場合は「該当なし」と記載している。 ※研究倫理審査が必要な研究以外にも、図書館や大学所蔵の古資料を扱う場合は機関ごとのルールへの配慮が必要であったり、資料に個人情報が含まれていればプライバシーへの配慮が必要であったりします。その場合は該当しますので注意してください。	
P10 4. 研究成果	・(1)～(6)まで該当の無い項目についても省略せず、項目名を記載した上で「なし」と回答している。 ・通し番号を付している。 ※通し番号は、項目ごとでも、全項目を通してでもかまいません。 ・申請者本人の氏名にアンダーラインを付している。 ・発表者氏名の前に〇印を付している。 ・(1)については査読の有無を記載している。 ・(3)(4)については口頭発表/ポスター発表の別、査読の有無を記載している。 例) (1)学術雑誌等に発表した論文、著書 (査読あり) ①阪大 花子・大学 好子・大阪 太郎「大阪大学の歴史」『阪大NOW』阪大出版、10号、pp.20-25、2017年 (査読なし) ②大阪 太郎「大阪大学80年史」『大阪大学研究会誌』OSAKA出版、5巻、pp.110-121、2018年 (2)学術雑誌又は商業誌における解説、総説 なし (3)国際会議における発表 (口頭発表、査読あり) ③〇Taro Osaka・Hanako Handai・Jiro Icho “History of Osaka University”, Asia University Conference 2018, Seoul University, March 2018 (4)国内学会・シンポジウム等における発表 (口頭発表、査読なし) ④〇Taro Osaka “OU Vision 2018”, the 51st meeting of Kansai Universities, Osaka University, May 2018 (5)特許等 なし (6)その他 ⑤大阪 太郎、大阪大学文学研究科賞(研究科内学業成績優秀者上位5名に授与)、2016年	
出力後	全11P(別紙がある場合は全12P)をA4用紙に両面印刷で、用紙左上をホチキス留めした	

日本学術振興会特別研究員-DC申請書 提出前チェックリスト

—例年、誤記の多い箇所をリスト化しています。

当チェックリストでセルフチェックを行ってから、庶務係に申請書を提出してください！—

チェック箇所	チェック内容	チェック✓
全ページ右下 申請者登録名	氏名を入力漏れが無い	
全ページ 文字サイズ	参考文献の引用部分も含め、文字は10ポイント以上で作成している	
全ページ 様式	昨年の様式を利用していない、様式に予め入力されていた文字等を削除していない	
P1 版数	最新の版数になっている。 ※すでに申請書を「確認完了・提出」し、「OK」ボタンを押している場合は、申請管理画面下部「申請書の確認」から申請書を印刷してください。(未提出であれば第0版) 電子申請システムにアップロードした書類の版数と印刷した書類の版数が合っていなければ、受け付けることができません。	
8 ローマ字表記	姓(大文字)・名(最初の1文字のみ大文字、2文字目から小文字)の順で記載している。	
12 学歴	「1.平成〇年〇月」あるいは「1.YYYY年〇月」と和暦・西暦いずれかで統一して記載している。 (13 博士の状況にあわせて「1.平成〇(西暦YYYY)年〇月」と併記しても可。) 課程名・専攻名に注意して正式名称を記載している。 例) 「大阪大学 文学部 人文学科 卒」 「大阪大学 大学院博士前期課程 入学(文学研究科 文化表現論専攻) 修了見込」 「大阪大学 大学院博士前期課程 入学(文学研究科 文化形態論専攻) 修了見込」 「大阪大学 大学院修士課程 入学(文学研究科 文化動態論専攻) 修了見込」	
13 博士の状況	「6.専攻名」を正しく記載している。 ※講座名ではなく専攻名。大阪大学文学研究科は「文化表現論」「文化形態論」「文化表現論」のいずれか。	
14 研究・職歴等	「1.平成〇年〇月」あるいは「1.YYYY年〇月」と和暦・西暦いずれかで統一して記載している。 (13 博士の状況にあわせて「1.平成〇(西暦YYYY)年〇月」と併記しても可。) TA/RAなどの従事歴は、正式名称を記載している。 例)「大阪大学文学研究科ティーチング・アシスタント」 ※職名は大学によって異なりますので、不明な場合は各大学の受入れ担当部署へ問い合わせてください。	
16 外国人留学生に対する奨学金等受給の有無	外国人留学生以外の方:空欄にしている。 外国人留学生の方:有無を選択している。	
P2 18,19 研究者番号	教員本人もしくはKaken(科学研究費助成事業データベース)検索等を利用して番号に誤りが無いことを確認した。 ※日本国内で研究をしている大学教員の多くは、研究者番号を持っています。	
20 採用後の申請者所属研究科正式名	(文学研究科受入れの場合は)「文学研究科」と記載している。	
別紙(該当者のみ)	すでに申請書1Pへ入力済の部分も含めて⑩～⑭の事項を1.から全て記載している。	
P6 (4) 年次計画	博士論文の作成計画ではなく、特別研究員としての研究計画を記載している。	
P7 (5) 人権の保護及び法令等の遵守への対応	該当しない場合は「該当なし」と記載している。 ※研究倫理審査が必要な研究以外にも、図書館や大学所蔵の古資料を扱う場合は機関ごとのルールへの配慮が必要であったり、資料に個人情報が含まれていればプライバシーへの配慮が必要であったりします。その場合は該当しますので注意してください。	
P8 4. 研究成果	・(1)～(6)まで該当の無い項目についても省略せず、項目名を記載した上で「なし」と回答している。 ・通し番号を付している。 ※通し番号は、項目ごとでも、全項目を通してでもかまいません。 ・申請者本人の氏名にアンダーラインを付している。 ・発表者氏名の前に〇印を付している。 ・(1)については査読の有無を記載している。 ・(3)(4)については口頭発表/ポスター発表の別、査読の有無を記載している。 例) (1)学術雑誌等に発表した論文、著書 (査読あり) ①阪大 花子・大学 好子・大阪 太郎「大阪大学の歴史」『阪大NOW』阪大出版、10号、pp.20-25、2017年 (査読なし) ②大阪 太郎「大阪大学80年史」『大阪大学研究会誌』OSAKA出版、5巻、pp.110-121、2018年 (2)学術雑誌又は商業誌における解説、総説 なし (3)国際会議における発表 (口頭発表、査読あり) ③〇Taro Osaka・Hanako Handai・Jiro Icho “History of Osaka University”, Asia University Conference 2018, Seoul University, March 2018 (4)国内学会・シンポジウム等における発表 (口頭発表、査読なし) ④〇Taro Osaka “OU Vision 2018”, the 51st meeting of Kansai Universities, Osaka University, May 2018 (5)特許等 なし (6)その他 ⑤大阪 太郎、大阪大学文学研究科賞(研究科内学業成績優秀者上位5名に授与)、2016年	
出力後	全9P(別紙がある場合は全10P)をA4用紙に両面印刷で、用紙左上をホチキス留めした	